

大学院工学研究科
機械・航空宇宙系専攻案内2023

機械システム工学専攻

マイクロ・ナノ機械理工学専攻

航空宇宙工学専攻

URL : <http://www.mae.nagoya-u.ac.jp>



平成 29 年度の本学工学研究科改組を受けて、機械系は新たに 3 専攻体制（「機械システム工学専攻」、「マイクロ・ナノ機械理工学専攻」、「航空宇宙工学専攻」）の組織として生まれ変わり、本年度で 7 年目になります。3 専攻が密接に協力し、今後ますます多様化・深化する機械・航空宇宙工学系の学理の整備・体系化、産官学連携による世界有数の教育・研究拠点の形成、ならびに国際的な視野を持ち、広く社会の各方面で活躍するイノベティブな人材の創出をリードしていきます。これにより、基盤産業を支え、新たな産業を創出し、より豊かな社会の実現に貢献していきます。また、令和 2 年度から発足した東海国立大学機構の枠組の中で岐阜大学と協力し、教育、研究の充実を図っています。

機械・航空宇宙工学科は、超小型精密機械から航空宇宙機といった多種多様かつ複雑なシステムを創りあげるために必要な基礎・応用技術を探求する学科です。機械工学および航空宇宙工学に共通する基礎教育の後、専門教育として根幹となる分野を最先端の機器と設備を備えた環境の中で学びます。企業からの寄付講座や協力講座を活用した実践的な教育や国際的教育プログラムによる英語による教育も行っております。

大学院における機械系 3 専攻の詳細は専攻ごとの紹介ページに記載の通りですが、その概要は以下の通りです。博士課程は前期課程と後期課程からなりませんが、博士課程修了生に対する社会の期待は年々高まり、社会問題を広い視野からとらえ解決できるエキスパートとして社会での活躍が期待されています。文部科学省（日本学術振興会）の各種プログラム等を活用しつつ、様々な学生支援を実施しながら後期課程への進学を積極的に奨励しています。中京圏は、自動車、ロボット、工作機械、航空宇宙機等に関する世界的にも類を見ない産業群の集積地であり、本学の機械系 3 専攻が果たすべき役割は極めて重大であります。こういった社会からの期待に応えつつ、成熟した社会における新たな機械・航空宇宙工学の創成をめざして、教職員一丸となって教育および研究に邁進しております。

機械・航空宇宙工学科 学科長 砂田 茂
Shigeru SUNADA

密接に協力し総合力を発揮する 3 専攻体制



航空宇宙工学専攻

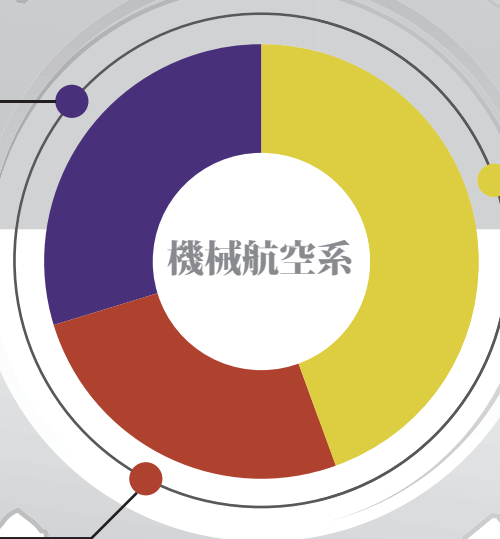
空力・推進講座（3 研究室）、構造・創製講座（2 研究室）、飛行・制御講座（2 研究室）の 3 講座からなります。本専攻では、高度な創造性、総合性を有する人材を育成しつつ、航空機、ロケット、人工衛星など航空宇宙産業に関する新技術の創造を目指します。

マイクロ・ナノ機械理工学専攻

マイクロ・ナノ機械科学講座（4 研究室）とマイクロ・ナノシステム講座（3 研究室）の 2 講座からなります。マイクロ・ナノテクノロジーの進展に伴うミクロな視点に立った機械工学は、学問体系全体を革新することが期待され、集積化、高度化、知能化した新しい超精密機械システムの創造を目指します。

機械システム工学専攻

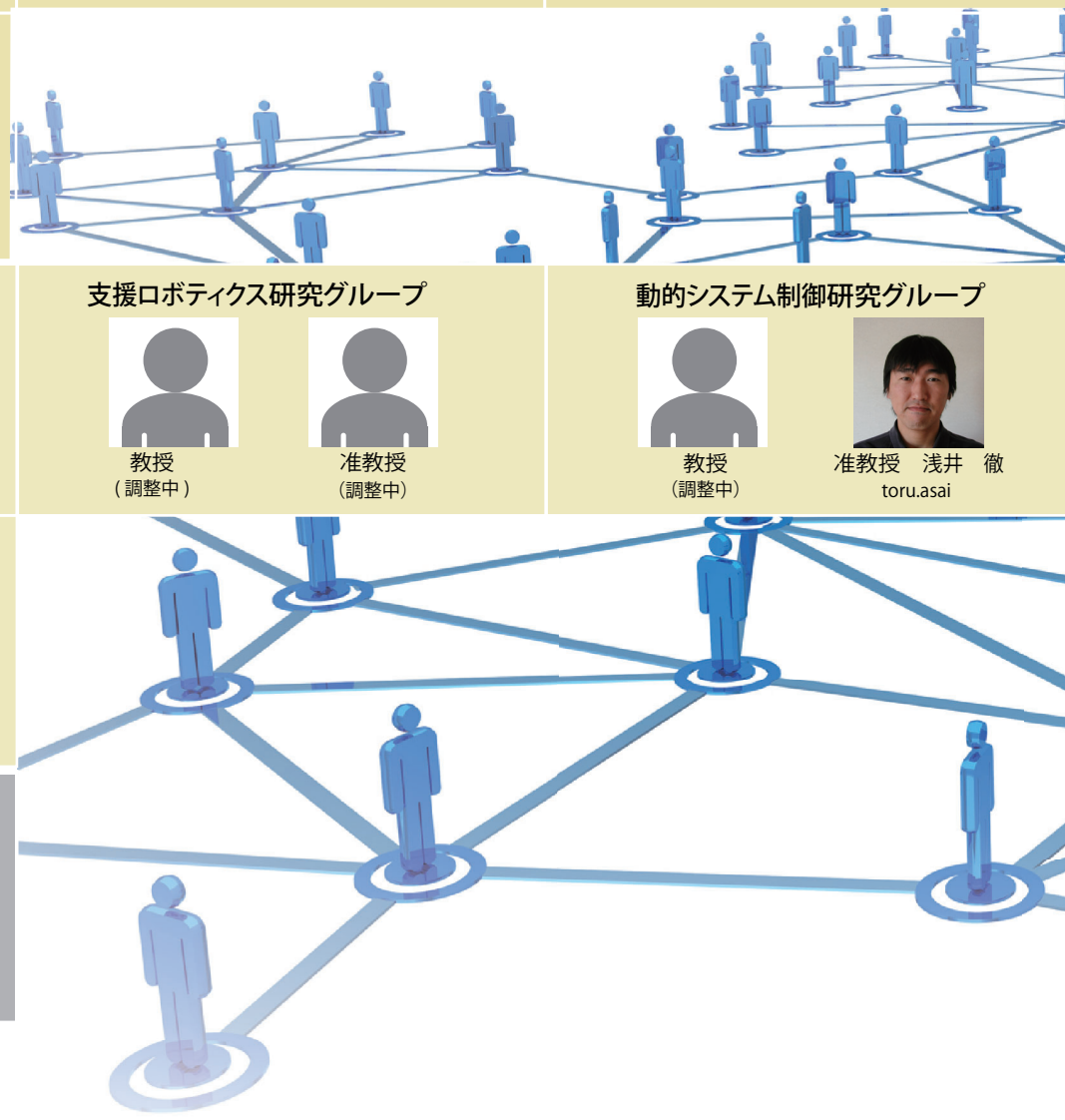
機械理工学講座（6 研究室）と機械知能学講座（6 研究室）の 2 講座からなります。本専攻では、機械工学分野の高度な細分化・専門化をリードすると同時に、情報科学や電子工学、更には生物学や生理学などまで、異分野の学理との融合を図ることで新しい知能機械やシステムの創造を目指します。

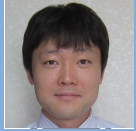


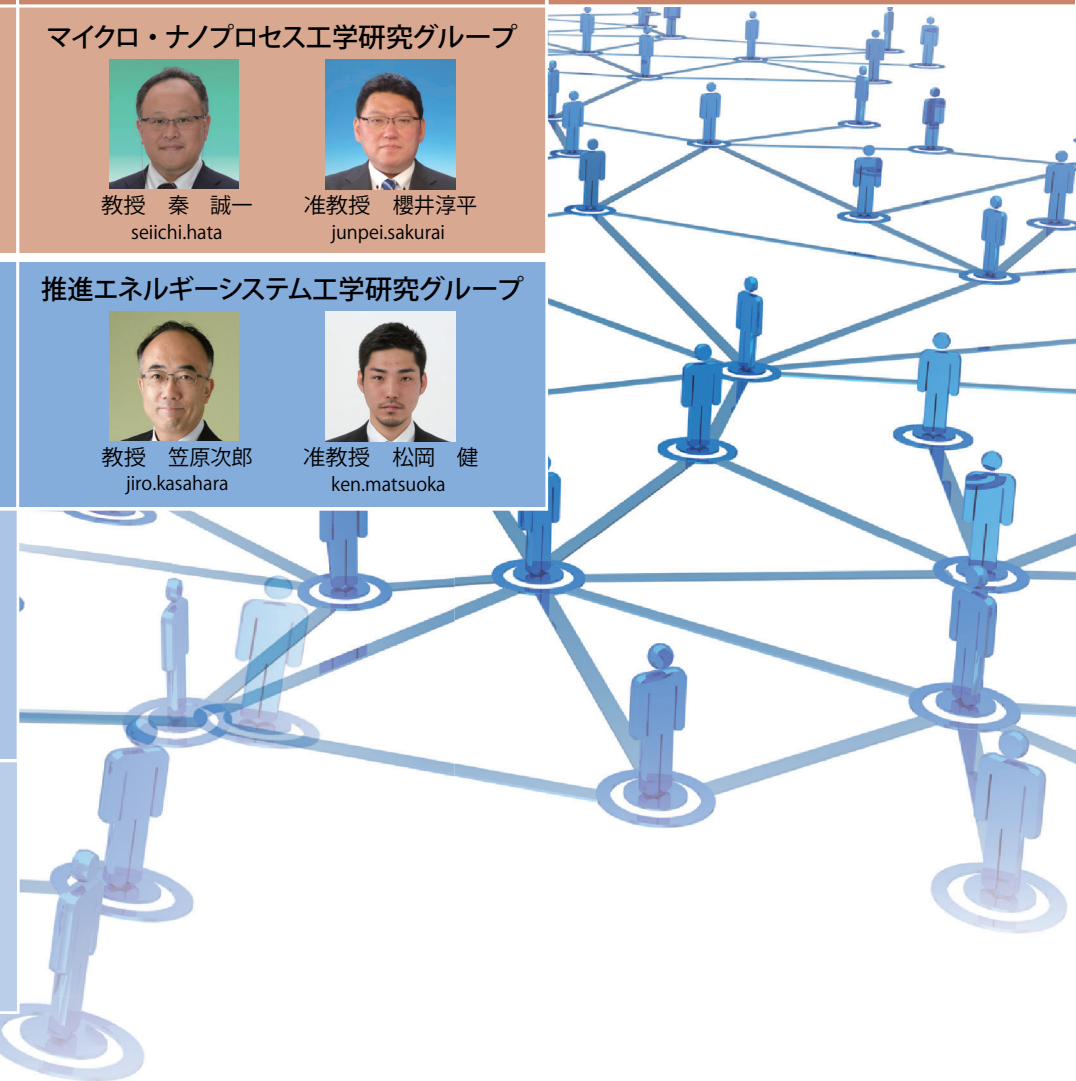


機械航空系 教授, 准教授, 講師一覧

講座		研究グループ名, 教授, 准教授, 講師, E-mail (名, 姓の後に@mae.nagoya-u.ac.jp を付けて送信願います.)			
機械理工学講座	熱制御工学研究グループ	 教授 長野 方星 hosei.nagano		 准教授 山本 和弘 kazuhiro.yamamoto	
		 講師 上野 藍 ai.ueno		環境・エネルギー工学研究グループ	
	固体力学研究グループ	 教授 奥村 大 dai.okumura		 准教授 永島 壮 so.nagaashima	
		計算力学研究グループ		 教授 松本敏郎 toshiro.matsumoto	
機械知能学講座	機械力学研究グループ	 教授 井上剛志 tsuyoshi.inoue		 准教授 部矢 明 akira.heyra	
		自動車安全工学研究グループ		 教授 水野幸治 koji.mizuno	
	データ駆動システム研究グループ	 教授 竹内 一郎 (ichiro.takeuchi)		 准教授 田地宏一 kouichi.taji	
		モビリティシステム研究グループ		 教授 鈴木達也 tatsuya.suzuki	
協力・寄附講座	ナショナルコンポジットセンター協力講座	先進複合材料研究グループ		 教授 吉村彰記 akinori.yoshimura	
		オーケストラ工作機械工学寄附講座		 教授 佐藤隆太 ryuta.sato	

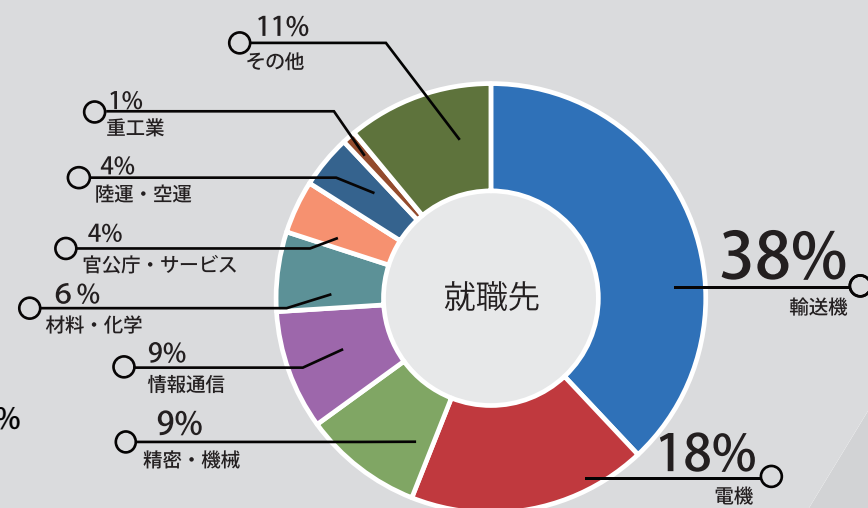
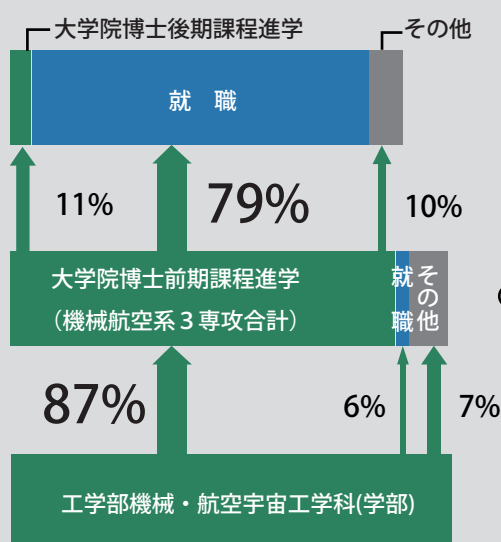


講座		研究グループ名, 教授, 准教授, 講師, E-mail (名. 姓の後に@mae.nagoya-u.ac.jp を付けて送信願います.)			
マイクロ・ナノ機械理工学専攻	マイクロ・ナノ機械科学講座	生産プロセス工学研究グループ  教授 梅原徳次 noritsugu.umehara	 准教授 野老山貴行 takayuki.tokoroyama	材料強度・評価学研究グループ  教授 (調整中)	 准教授 徳 悠葵 yuki.toku
	マイクロ・ナノシステム講座	バイオリボティクス研究グループ  教授 (調整中)	 准教授 丸山央峰 hisataka.maruyama	知能ロボット学研究グループ  教授 長谷川泰久 yasuhisa.hasegawa	 准教授 青山忠義 tadayoshi.aoyama
		マイクロ・ナノプロセス工学研究グループ  教授 秦 誠一 seiichi.hata		 准教授 櫻井淳平 junpei.sakurai	
		センシング工学研究グループ  教授 福澤健二 kenji.fukuzawa		 准教授 伊藤伸太郎 shintaro.itoh	
航空宇宙工学専攻	空力・推進講座	流体力学研究グループ  教授 (調整中)	 准教授 渡邊智昭 tomoaki.watanabe	衝撃波・宇宙推進研究グループ  教授 佐宗章弘 akihiro.sasoh	 准教授 杵淵紀世志 kiyoshi.kinefuchi
	構造・創製講座	構造力学研究グループ  教授 荒井政大 masahiro.arai	 准教授 後藤圭太 keita.goto	生産工学研究グループ  教授 社本英二 eiji.shamoto	 准教授 早坂健宏 takehiro.hayasaka
	飛行・制御講座	航空宇宙機運動システム工学研究グループ  教授 砂田 茂 shigeru.sunada		制御システム工学研究グループ  教授 原 進 susumu.hara	
		 准教授 稲守孝哉 takaya.inamori		 准教授 椿野大輔 daisuke.tsubakino	



進学・進路

進学



就職先企業等リスト

機械システム工学専攻

アイシン、アクセンチュア、いすゞ自動車、ウエスタンデジタル、AGC、HGST ジャパン、NTT データ、NTT docomo、NTT コミュニケーションズ、NTT データ、ENEOS、オーエスジー、小糸製作所、コマツ、サンワ構造システム、JR 東海、JERA、島津製作所、シャープ、シンプレクス、スバル、セイコーエプソン、ソフトバンク、中部電力、テルモ、デンソー、デンソーテクノ、東京エレクトロン、東芝デバイス&ストレージ、東邦ガス、トヨタカスタマイジング&ディベロップメント、豊田自動織機、トヨタ自動車、日揮、日産自動車、日本マイクロソフト、パナソニック、パナソニック CNS、浜松ホトニクス、阪急阪神ホールディングス、阪神高速道路、日立製作所、日立ハイテク、プラスアルファコンサルティング、ホンダ、三浦工業、三井 E&S マシナリー、三菱ケミカルエンジニアリング、三菱地所、ヤマハ発動機

マイクロ・ナノ機械理工学専攻

アズビル、出光興産、イテックフィルダース、NTT docomo、エプソン、川崎重工業、キオクシア、キャノン、クボタ、サントリーホールディングス、中部電力、東急、東芝、豊田自動織機、トヨタ自動車、日本ガイシ、NEXCO 中日本、ネットフォース、日立製作所、ファナック、富士フイルム、富士フイルムヘルスケア、富士フイルムビジネスイノベーション、ブラザー工業、マイクロンメモリ ジャパン合同会社、マツダ、三井化学、三菱電機エンジニアリング、村田製作所、ヤマザキマザック、ヤマハ、ローム

航空宇宙工学専攻

アイシン、IHI、SCSK、NTT データ東海、川崎重工業、キーエンス、キャノン電子、キャノン IT ソリューションズ、クボタ、KDDI、コクヨ、JAL パイロット、シンフォニアテクノロジー、住友電気工業、ソニー LSI デザイン、中部電力、デロイトトーマツコンサルティング、デンソー、東京地下鉄、トヨタ自動車、豊田自動織機、日産自動車、日本製鉄、日本電気、野村総合研究所、ファナック、ブラザー工業、防衛装備庁研究職、ボッシュ、ホンダ、牧野フライス製作所、三菱重工業、三菱電機、ヤマザキマザック

短期留学者数 (2 か月～12 か月)

機械航空系3専攻では、博士後期課程のみならず博士前期課程学生の留学も推奨しています。期間が6か月以下の場合には、通常の2年で博士前期課程を修了できます。

UCLA (アメリカ) 7名

トロント大学 (カナダ) 1名

テキサス大学オースティン校 (アメリカ) 1名

寺井勇裕

(2022年にUCLAに留学)

「海外大学で研究をする」、これが英語力を身につける上で最も効果的な方法だと考え、UCLAでの研究留学を決意しました。結果的に英語力だけでなく、様々な背景を持った学生との交流を通じて、色々な価値観を学ぶことができました。特にインド人学生とルームシェアをした経験はかけがえのない思い出です。アメリカでの研究生生活は想像以上に厳しかったですが、毎日が刺激的でした。この貴重な経験で自身の成長と人生観の形成に繋がったことは間違いないです。



留学・国際交流等実績

企業インターンシップ実績

三菱重工業、トヨタ自動車、ブリジストン、東邦ガス、三菱電機、ヤマハ発動機、キャタピラー、大同特殊鋼、中部電力、デンソー、ソニー、ヤマザキマザック、アイシン AW、リンナイ、松田電気工業所、パナソニックエコシステムズ、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

共同研究、交換留学などでの短期留学生受入

アメリカ：ミシガン大学、UCLA

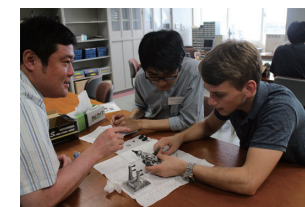
カナダ：トロント大学

スイス：スイス連邦工科大学ローザンヌ校

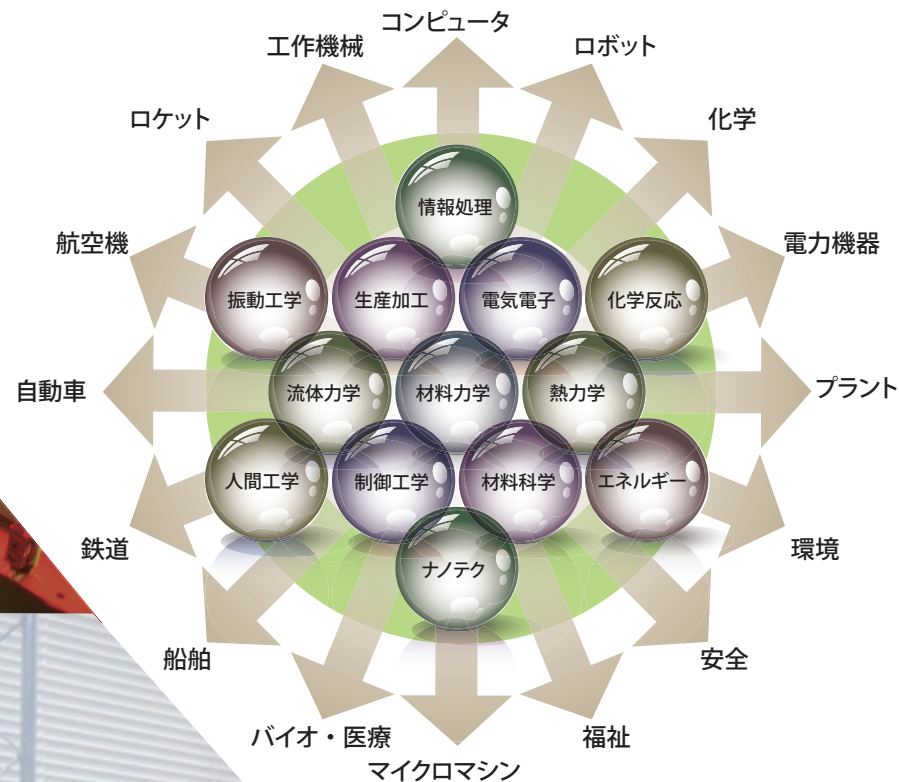
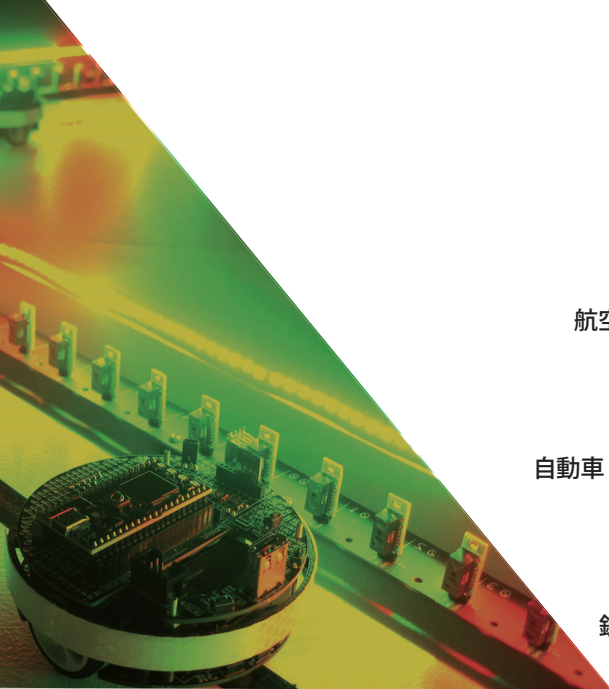
中国：武漢理工大学、ハルビン工科大学、南京理工大学

カザフスタン：カザフ国立大学

国際協働教育プログラム



ミシガン大学、UCLA とは「修士課程学生に対する日米協働教育プログラム (JUACEP)」として 2012 年から継続的な交換留学を行っています。2018 年度からはトロント大学 (カナダ) も加わりました。



産業革命以降、機械工学は急速に進化し続けています。現在、私たちの日常生活には、自動車の電動化や自動化、AIシステムの普及、脱炭素社会への要求など、単独の機械要素では解決できないさまざまな社会課題が存在しています。こうした課題を解決するためには、ハードウェアとソフトウェアの両面からアプローチする必要があり、それが機械システム工学の役割です。

本学の機械システム工学専攻は、社会の変革と課題解決に貢献するため、新たな機械システム工学の研究と教育に取り組んでいます。専攻は、機械工学の基礎となる四力学（熱、流体、材料、機械）に基盤を置いた機械理工学講座と、モビリティやロボティクスなど複数の機械要素を統合し、効率的なシステムの創出を目指す機械知能学講座から成り立っています。

各研究グループは、専門領域において世界トップレベルの学術成果を生み出し、新たな基礎学理の創出や社会課題解決に貢献しています。また、国内外の研究機関との連携により、破壊的イノベーションの創出にも挑戦しています。

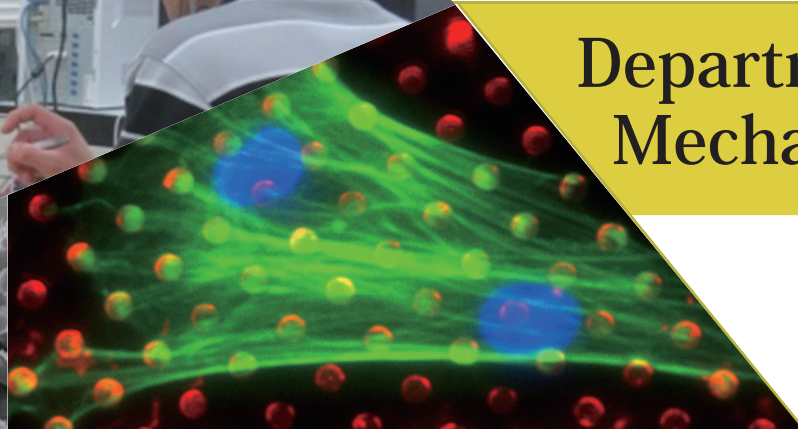
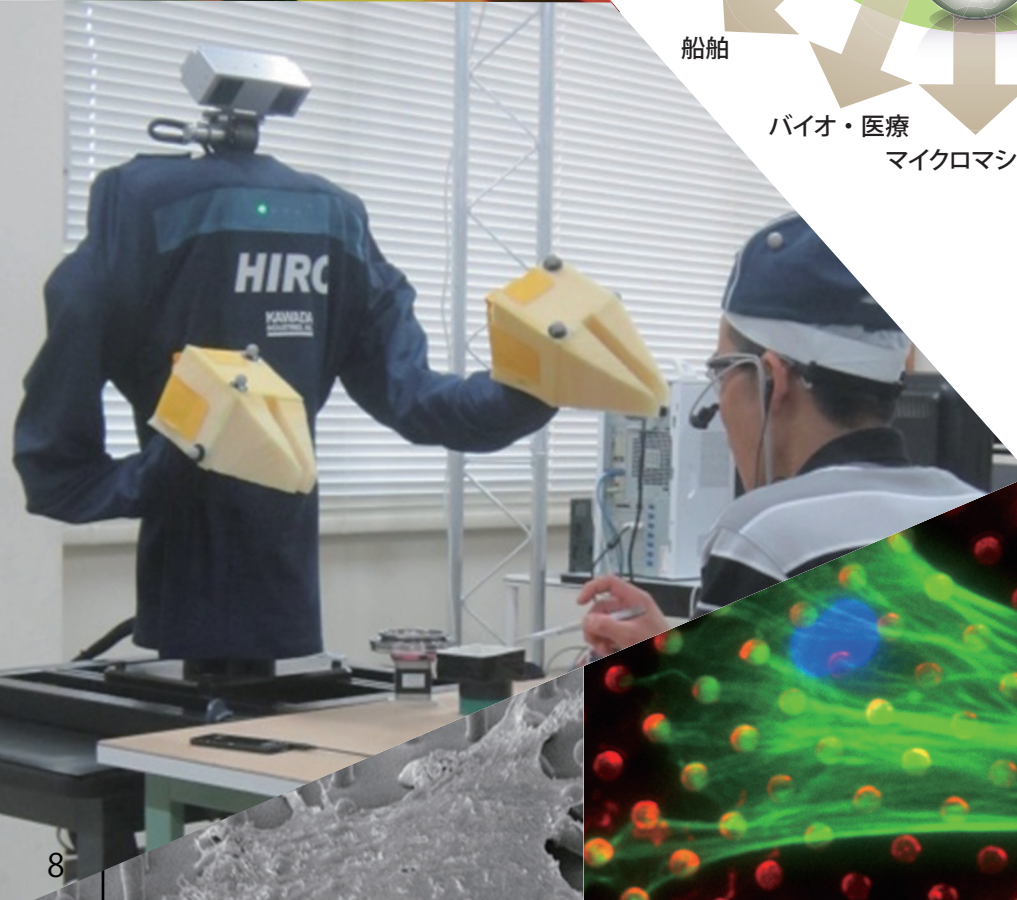
教育面では、機械工学とシステム工学の統合を通じて、革新的な技術の開発と問題解決能力の育成を目指しています。学生たちは実践的なプロジェクトや研究に取り組むことで、実世界の課題に対して創造的な解決策を見つける能力を磨いています。



専攻長 長野 方星
Hosei NAGANO

機械システム工学専攻

Department of
Mechanical Systems Engineering



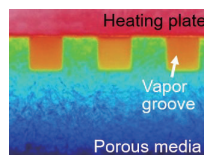
熱制御工学研究グループ

<http://www.eess.mech.nagoya-u.ac.jp>

教授 長野 方星

准教授 山本 和弘

講師 上野 藍



先端計測に基づく次世代熱マネージメント技術の創成

地球環境への負荷低減を目指した熱・エネルギー・燃焼システムの研究、次世代宇宙機の省エネ高効率熱制御や、乱流燃焼場や多孔体内気液挙動解明のための計測と可視化、熱物性計測技術の研究開発など、地球・宇宙にまたがるマルチスケールの熱エネルギーマネージメントを研究対象としています。

- ◆先進機能材料の熱物性計測と機能的熱制御デバイス応用
- ◆毛管現象を利用した熱エネルギー輸送・利用技術
- ◆マイクロスケール多孔体内気液相変化挙動の理解
- ◆宇宙極限環境における人工衛星の高効率熱制御
- ◆水素と二酸化炭素による合成メタンの製造技術
- ◆自動車の排気ガスに含まれるナノ粒子の浄化技術の開発

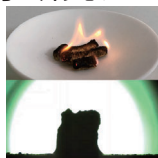
環境・エネルギー工学研究グループ

<http://www.mech.nagoya-u.ac.jp/naruse>

教授 成瀬 一郎

准教授 義家 亮

准教授 植木 保昭



地球・地域環境調和型高効率エネルギー変換技術の開発

地球の持続性担保、地域における物質循環型社会の創成を具現化するためには、バイオマスおよび廃棄物、化石資源の低環境負荷型高効率利用の仕組みづくりが不可欠です。このため、燃焼やガス化などの高温プロセスを利用した新たな環境調和型高効率エネルギー変換技術の開発とその機構解明に取り組んでいます。

- ◆バイオマスの高効率利用技術の開発
- ◆環境調和型廃棄物エネルギー利用技術の開発
- ◆廃棄物燃焼ボイラにおける灰付着制御
- ◆CO₂の排出削減を目指したOxyバイオマス燃焼・ガス化技術の開発
- ◆燃焼プロセスにおける水銀の放出抑制技術の開発
- ◆製鉄プロセスにおける廃棄物・バイオマス利用による炭素代替

統計流体工学研究グループ

教授 (調整中)

准教授 (調整中)

助教 (調整中)

(調整中)

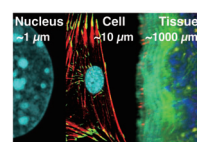
バイオメカニクス研究グループ

<http://bio.mech.nagoya-u.ac.jp>

教授 松本 健郎

准教授 前田 英次郎

助教 杉 ジョシヨシ



生体組織の力学的適応現象のマルチスケールでの解明と医学・工学への応用

生体組織は力学的にも最適化されており、力学環境の変化に応じて最適状態を保つ場合の多いことが知られています。この現象をタンパクレベルから細胞、組織レベルまで幅広く明らかにし、得られた成果を医学・工学へ応用することを目指しています。

- ◆生物の形づくりを利用したものづくり
- ◆生物の形態形成と機能維持・再生に対する力学因子解明のための組織・細胞レベルの解析
- ◆ひずみによる色が変わるタンパク質を利用した分子レベルの組織内力学解析
- ◆動脈硬化の早期・簡便診断を目指した血管機能検査装置の開発
- ◆力学負荷を用いた生体組織線維構造形成の操作
- ◆組織工学・再生医療応用にに向けた3次元人工細胞組織モデルの開発

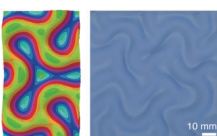
固体力学研究グループ

<http://www.mech.nagoya-u.ac.jp/mml/>

教授 奥村 大

准教授 永島 壮

助教 松原 成志朗



未来を拓く固体力学：ハードからソフトに非線形固体力学の最先端

ハードマテリアルからソフトマテリアルに工業材料の利用の拡大を考えると、固体力学の果たす役割は益々重要になっている。ソフトマテリアルは大変形や非線形性に由来して機能性を発現し、未知の変形機構を有する。機構解明やモデル化、工学応用を目指して研究・開発を進めている。

- ◆新奇なノンレシプロカルゲルの有限要素解析と性能予測
- ◆分岐座屈理論に基づく表面パターン変態の解析
- ◆ハイドロゲルの力学特性膨潤度依存性の実験的評価
- ◆バイオミメティックな表面パターン制御手法の開発
- ◆マルチフィジックス問題の強連成フレームワーク構築
- ◆固体の表面不安定を積極的に利用した機能材料・デバイス創製

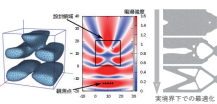
計算力学研究グループ

<http://www.matsumoto.nuem.nagoya-u.ac.jp>

教授 松本 敏郎

准教授 高橋 徹

助教 CUI YI



数値シミュレーション・バーチャルエンジニアリング技術の高度化と設計工学への応用

数値シミュレーションは理論・実験と並ぶ理工学における問題解決の強力な手法であり、機械構造物の開発過程において数値シミュレーション技術を駆使したバーチャルエンジニアリング技術が急速に発達しています。本グループでは、高度なバーチャルエンジニアリング技術の開発を行うとともに、これに基づく先進的機械構造物の最適設計法の開発に取り組んでいます。

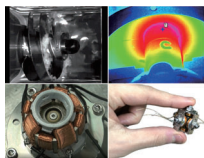
- ◆複合材料を用いた次世代自動車構造部材のトポロジー最適設計
- ◆局所共振フォノンニック構造を利用した革新的制振デバイスの最適設計
- ◆メッシュ更新による実境界下での構造最適化設計
- ◆フォトニック結晶やプラズモニクスを利用した次世代電磁デバイス・メタマテリアルの最適設計
- ◆アイソジオメトリックモデリングによるシミュレーション技術の開発
- ◆境界要素法に対する高速解法の開発と各種設計への応用

機械力学研究グループ

教 授 井上 剛志

准教授 部矢 明

助 教 (調整中)



機械システムの高精度モデリングとダイナミクス解析・予測・制御

機械力学を中心とし、非線形ダイナミクス、マルチフィジックスモデリング、制御工学、マルチボディダイナミクスの理論を用いて、様々な機械システムを高速・高精度・高効率・高信頼で動かすための基盤技術の研究を行っています。また、新しいアクチュエータやダンピングデバイスの開発、振動・運動の制御・予測・推定技術、振動ハプティクスに関する研究を行っています。

<https://sites.google.com/view/inoue-laboratory/>

- ◆マルチフィジックスモデリング・解析 (ロケット用ターボポンプ, モータ)
- ◆機械システムの状態監視・予測・診断 (ロータクラック, 軸受の摩耗, 安定限界速度の予測)
- ◆多自由度アクチュエータの構造・制御・モデリング法の提案
- ◆ダンピングデバイス (オイルフリーダンパ, 流体連成・電磁連成ダンパ, 遠心振り子ダンパ)
- ◆振動制御理論・センサレス振動制御)

自動車安全工学研究グループ

教 授 水野 幸治

助 教 趙 雨晴



交通事故における人の行動, 衝撃時の人体応答・傷害機序の解明と傷害防止

自動車の衝突や高齢者の転倒のように、衝撃が加わった場合の人体の応答や傷害機序を解明し、被害軽減の実現によって社会に貢献することを目指しています。シミュレーション・衝撃実験を行うとともに、国内外を含む産学連携により自動車の衝突実験や台上実験を実施しています。

<http://www.mech.nagoya-u.ac.jp/hseg>

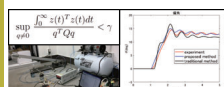
- ◆自動車の衝突特性
- ◆自動車衝突時の乗員保護方法の確立
- ◆歩行者・自転車の事故における傷害機序の解明と傷害防止
- ◆ドライブレコーダ・ドライビングシミュレータを用いた事故発生要因およびドライバ応答分析
- ◆高齢者の転倒による大腿部近位部骨折の防止

動的システム制御研究グループ

教 授 (調整中)

准教授 浅井 徹

助 教 (調整中)



ダイナミクスのデザインとシステムの創成

ダイナミクスをデザインするための基盤となる「数値モデリング」と「システム制御理論」の研究を実施するとともに、その成果を先端科学分野や産業界へ展開しています。また、このような研究を通して、新しい未来を拓くようなシステムの創成を目指しています。

<http://www.ctrl.mae.nagoya-u.ac.jp>

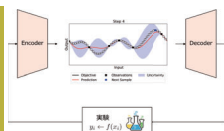
- ◆数値モデリング
- ◆ロバスト制御, ハイブリッド制御
- ◆ディーゼルエンジン, 超小型モビリティ, 油圧駆動系などのモデルベース制御
- ◆快適性や製造精度向上のための振動抑制制御
- ◆エネルギー管理システムへの応用

データ駆動システム研究グループ

教 授 竹内 一郎

准教授 田地 宏一

助 教 (調整中)



AI・機械学習・データサイエンスに基づくものづくり技術の理論と実践

AI・機械学習・データサイエンスに基づいた、データ駆動型の科学研究や技術開発を行うための基盤技術を開発します。開発した技術を設計・生産工学の様々な課題で活用し、ものづくり技術の革新を目指します。

<https://www.mlds.mae.nagoya-u.ac.jp/>

- ◆AI・ロボット融合によるサイエンス自動化に関する研究
- ◆信頼される解釈可能な AI システムに関する研究
- ◆機械学習システムの全自動化に関する研究
- ◆機械学習・最適化の数値理論・アルゴリズムに関する研究
- ◆生産工学・経営工学における AI・データサイエンス活用

モビリティシステム研究グループ

教 授 鈴木 達也

准教授 奥田 裕之

助 教 山口 拓真



先端システム科学によるモビリティシステムのモデル化・分析・制御

ハイブリッドシステム論や自律分散システム論等のシステム科学における最新の成果に基づいて、次世代モビリティのあるべき姿を探索します。特に人間との共生、複雑な環境への適応、という視点を意識し、理論構築と実装技術の両面において新たなブレークスルーを目指します。

<http://www.suzlab.mae.nagoya-u.ac.jp>

- ◆数値モデルに基づく運転行動解析とその自動運転への応用
- ◆運転行動支援のための制御理論・HMI 技術の構築
- ◆人間への配慮を実現する自動制御システムの設計
- ◆車輪型自律移動体の知能化制御
- ◆多脚移動ロボットの分散制御と運動計画
- ◆車載蓄電池を活用したエネルギーマネジメントシステムの構築

支援ロボティクス研究グループ

教 授 (調整中)

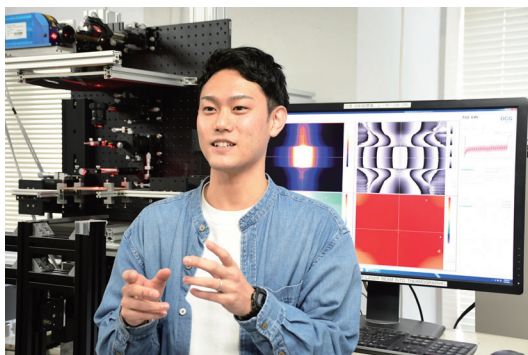
准教授 (調整中)

助 教 (調整中)

(調整中)

藤田 涼平, 博士後期課程 2 年

私は熱制御工学研究グループに所属し、ロックインサーモグラフィを用いた炭素繊維強化複合材料 (CFRP) の疲労挙動に関する研究を行っています。修士課程を卒業後は3年間航空会社にて機体構造整備に従事しましたが、自身の研究をさらに深めたいと考え博士課程への進学を決めました。研究室では B4 からドクターまで独自の研究テーマをもち、企業や JAXA 等の研究機関と共同で研究を進めています。名古屋大学では研究室発ベンチャーの機運も高まってきました。学生という立場に留まらず活躍する人が多くなってきた印象がします。私も世界に先駆けた優れた研究成果をだし、社会に実装できる研究者を目指して一歩ずつ頑張っていきたいと思います。



平川 明莉, 博士前期課程 2 年

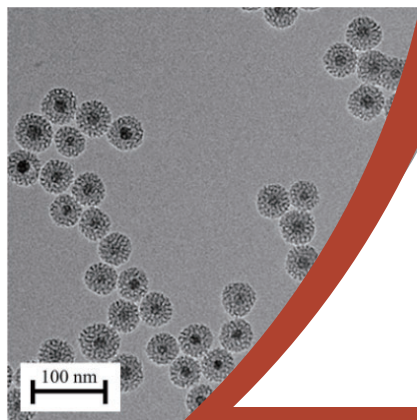
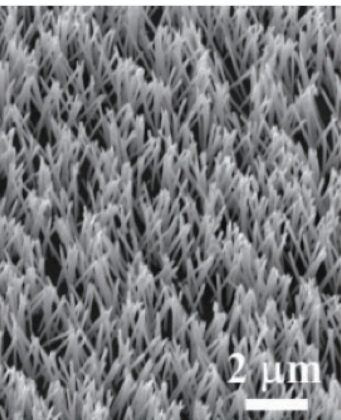
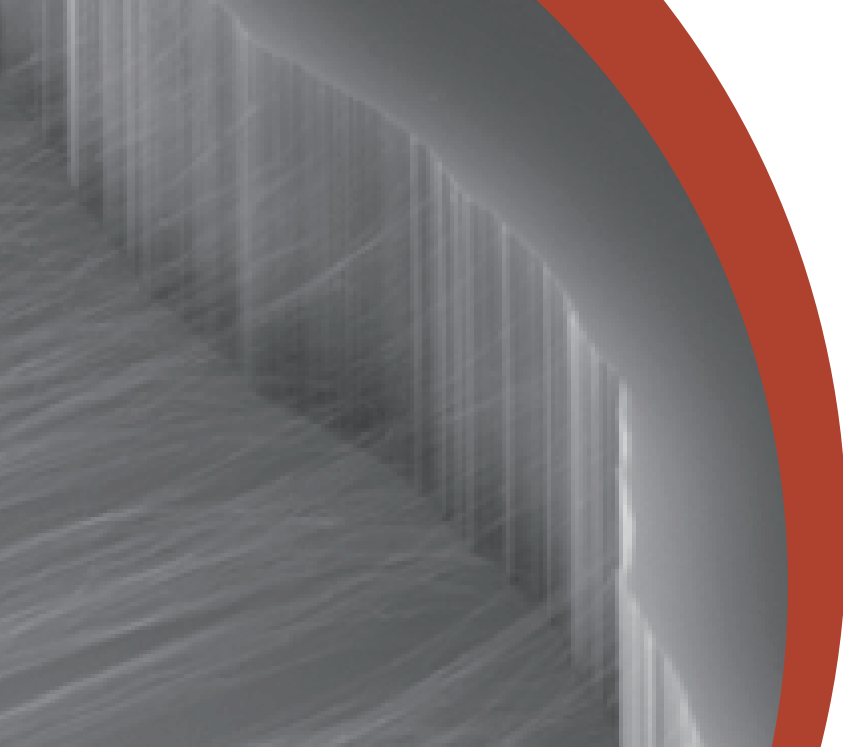
私は機械システム工学専攻の固体力学研究グループに所属しており、固体の力学特性を解析するための数値解析手法に関する研究をしています。研究について初めは全く知識が無い状態でしたが、研究室内のセミナーで議論したり、先生や先輩に指導して頂きながら自分なりに考えて進めていくことに面白さを感じています。また、講義で他専攻の授業を受けたり、学会発表の場など刺激を貰える機会が多くあり、研究の知識に限らず様々なことが学べます。今後も研究室のメンバーと切磋琢磨しながら楽しく充実した研究生活を送っていきます。



武隈 俊太郎, 博士後期課程 2 年

私は動的システム制御研究グループに所属し、太陽系の惑星を自律探査するロボットの研究を行なっています。毎週教授をはじめ研究室のメンバーと議論を行うことでレベルの高い研究が出来ており、学会発表など各種成果も順調に出せています。研究テーマは私から教授に持ち込んだものでしたが、寛大にも全面的にご指導をいただくことができ、名古屋大学の「勇気ある知識人を育てる」という基本理念に非常に感謝しながら研究を進めさせていただいています。また、博士後期課程からは大学から助成金をいただくこととなり、ストレスのないとても充実した研究生活を送ることができています。これからも研究を楽しみながら博士号取得に向け邁進して行きたいです。





本専攻は、マイクロ・ナノテクノロジーの進展に対応して、微小機械システムを総合的に扱うマイクロ・ナノシステム工学専攻として1994年に日本で初めて設置されました。その後マイクロ・ナノ機械理工学を総合的に教育・研究する専攻として、2017年にマイクロ・ナノ機械理工学専攻へと改組されました。さらに、本年2023年に新設のEI創発工学館に移転し、新しい施設の中で教育・研究の充実が図られています。EI創発工学館へは、工学研究科の中から本専攻と物質科学専攻が移転しました。マイクロ・ナノ領域の機械工学と物質科学の融合から画期的な技術イノベーションが創成されることが期待されています。

本専攻が設置された当初は、半導体微細加工技術を機械システムに応用したマイクロマシンが注目され、微小機械が研究の中心となっていました。その後のマイクロ・ナノテクノロジーのさらなる進展により、現在は微小機械のみならずマクロなサイズの機械でもコアとなる部分の設計・加工の精度をマイクロ・ナノレベルまで超高精度化させることで、革新的な機械を実現することが様々な産業分野で期待されています。このように、マイクロ・ナノ機械理工学は、先進的な学問・産業領域からの期待がますます高まっています。

一方、マイクロ・ナノ領域ではマクロな領域と異なる原理が機械の動作・特性を支配します。しかし、その工学としての体系確立は未だ十分とは言えません。これを受けて、本専攻では、新機能性材料の創製、微細加工技術、ナノ計測技術、動的制御技術を基盤として、マイクロ・ナノの世界での新しい学理に基づく「革新的な超精密機械」を創出することを目標として教育・研究を進めています。とくに、ミクロからマクロまでの機械工学に関する基盤的な能力を養成し、さらにマイクロ・ナノ機械理工学特有の学際的な教育・研究により、産業の変革をもたらす研究者・技術者の養成を目指しています。そのため、本専攻の卒業生は、精密機械分野のみならず自動車産業、電気・電子産業、化学工学、インフラなど多岐にわたる分野で活躍をしています。このようにマイクロ・ナノ機械理工学専攻は、新しい機械工学の創成をめざして、熱意ある教員と学生で構成される活気ある専攻です。



専攻長 福澤 健二
Kenji FUKUZAWA

マイクロ・ナノ機械理工学専攻

Department of Micro-Nano Mechanical Science and Engineering

生産プロセス工学研究グループ

<https://www.ume.mech.nagoya-u.ac.jp/>

教授 梅原 徳次

准教授 野老山貴行

助教 張 鋭璽



次世代機械システムのための機能性表面の創成と評価

加工では形状創製とともに表面を創製する。機械部品には多くの表面があり、それらの表面特性により新たな機能性を発現します。このような機能性を有する加工面を除去加工、変形加工、付着加工で創製・評価する独自技術を開発します。

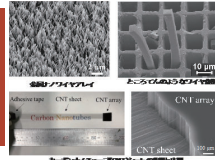
材料強度・評価学研究グループ

<http://www.mech.nagoya-u.ac.jp/ju/>

教授 (調整中)

准教授 徳 悠葵

助教 木村 康裕



ナノ力学・ナノ物性学を融合した先端材料の創製・評価の新しい展開

ナノレベルの微小領域における力学、物性学に着目し、学際的アプローチにより、材料、デバイス、構造物の健全性・信頼性評価及び機能性向上、さらに微小材料、機能材料、知的材料の開発および展開に関する研究を推進しています。

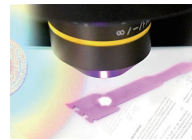
マイクロ熱流体工学研究グループ

<http://www.mech.nagoya-u.ac.jp/mtfe/>

教授 (調整中)

准教授 山口 浩樹

助教 (調整中)



マイクロ・ナノスケールの熱流動

微小スケールにおける流れや熱輸送の様相は通常とは大きく異なりますが、全く関係なさそうな宇宙や真空での状況と似てきます。本研究グループでは、このような分子の運動が主体となる熱流動現象に対し、計測から特性解明を行い、デバイスへの応用を目指して研究しています。得られた知識は宇宙や真空においても活用が期待されます。

センシング工学研究グループ

<http://ayame.fukuzawa.nuem.nagoya-u.ac.jp/>

教授 福澤 健二

准教授 伊藤伸太郎

助教 東 直輝



先端センシング工学による超精密機械の実現

センシング工学とは「はかる」ことで人と社会の役に立つ新しい技術を生み出す研究分野です。本研究室では「高精度にはかる」「超小型のセンサではかる」「賢くはかる」ことができる新しい技術を確認し、マイクロ・ナノマシン、情報機器、バイオ応用システムなど革新的な超精密機械の実現を目指しています。

- ◆超低摩擦 CNx 膜の創製と評価
- ◆蛍光染色粒子を用いた接触面間粒子侵入可視化法の開発
- ◆マイクロ・ナノ電極による放電を利用した表面ナノ構造制御技術の開発
- ◆ナノストラクチャー炭素系硬質膜による超耐摩耗性発現への挑戦
- ◆血液凝固付着抑制電気メスの開発
- ◆摩擦状態に合わせた能動的スマートサーフェイスシステムの開発
- ◆電子エミッションを用いた薄膜上微小破壊の可視化技術開発

- ◆金属材料の損傷治癒及び力学特性向上に関する研究
- ◆周期的電子風力を利用した原子再配列法に関する研究
- ◆原子拡散を活用した金属単結晶マイクロ・ナノワイヤの創製と展開
- ◆ナノ構造体・カーボンナノチューブシートの開発とナノデバイス・水素製造への高度利用
- ◆電流下の金属組織変化解明のための透過型電子顕微鏡内その場観察
- ◆ナノ結晶からなる新奇セラミックス材料の創製
- ◆機能性ナノワイヤ面ファスナーの創製
- ◆高秩序垂直配向金属ナノコイルアレイの開発

- ◆レーザーによるマイクロ気体流れの非侵襲計測技術の開発
- ◆温度勾配で駆動される流れを利用したマイクロデバイスの開発
- ◆マイクロ空孔を持つ多孔質体における熱流動の解析と応用
- ◆壁面がマイクロ熱流動に及ぼす影響の解明
- ◆実験・数値解析による気体・固体境界条件の解析とモデル化

- ◆ナノ力学センシングとマニピュレーションを実現するマイクロメカニカルプローブ
- ◆ナノスケールの動的な流体現象を可視化するエリブソメトリ顕微鏡法の確立
- ◆高精度・高速な DNA 分析を実現するマイクロ流体デバイスの開発
- ◆医療デバイスへの応用を目指した生体適合ポリマーによる表面流動特性の制御
- ◆次世代情報記録装置のための先端トライボロジーシステムの開発
- ◆低燃費を実現するためのエンジン潤滑技術
- ◆AI を応用した分子動力学シミュレーションによる分子挙動と化学反応の解析

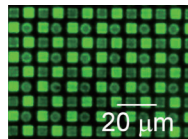
バイオリボティクス研究グループ

<http://www.biorobotics.mech.nagoya-u.ac.jp/>

教授 (調整中)

准教授 丸山 央峰

助教 (調整中)



マイクロ・ナノメカトロニクスと微細加工に基づいたバイオメディカル分野に貢献するロボティクス

マイクロ・ナノメカトロニクスと微細加工を基盤としたロボティクス・メカトロニクスに関する研究を推進しています。マイクロ・ナノ領域の物理化学現象を理解し、さらにバイオメディックな視点を取り入れた微小機械システムの開発を行い、ナノ・マイクロ〜マクロスケールにおけるロボティクスのバイオメディカル応用を目指します。

知能ロボット学研究グループ

<https://www.mein.nagoya-u.ac.jp/>

教授 長谷川泰久

准教授 青山 忠義

助教 竹内 大



人を支援する知能ロボットとマイクロ・ナノ操作システム

人の運動や物の搬送などの作業を支援する知能ロボット、および、マイクロ・ナノ計測・加工・組立を統合化した革新的なマイクロ・ナノ操作システムを研究開発し、バイオ・医療・福祉分野への応用を目指しています。人とロボットの協調・融合を細胞レベルから実現する技術を開拓し、世界最先端のロボット技術の研究・教育を行っています。

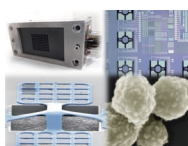
マイクロ・ナノプロセス工学研究グループ

<http://mnmm.mae.nagoya-u.ac.jp/jp/>

教授 秦 誠一

准教授 櫻井 淳平

助教 岡 智絵美



微細加工技術とマイクロ・ナノメカトロニクス

新原理・新方式の微細加工技術をはじめ、MEMS、NEMS、マイクロ・ナノマシン用の新材料開発のためのコンビナトリアル技術、材料評価技術、それらを用いたマイクロ・ナノデバイスと医療・産業応用システムを幅広く研究しています。さらに、共同研究、プロジェクト研究などを通じて社会実装を推進しています。これにより、新しい材料、加工法、産業の創成を目指しています。

- ◆MEMS 技術を利用したセンサ・アクチュエータの設計・製作と制御
- ◆レーザ操作・計測技術を用いた単一細胞内計測
- ◆細胞培養環境の高時空間環境計測のための非接触型マイクロセンサ
- ◆手術訓練シミュレータ用センサ搭載臓器モデルの設計・製作と評価
- ◆歩行トレーニング機器を用いた生体信号抽出

- ◆ロボットの身体化技術および高親和性技術
- ◆下肢運動支援ロボットによるリハビリ・生活支援
- ◆生活支援ロボットの遠隔操作インタフェース
- ◆AIを用いた革新的マイクロ・ナノ操作システムの構築
- ◆画像センシングとマクロ・マイクロ・インタラクション
- ◆高速視覚に基づくヒトの運動学習支援システム
- ◆生体内埋込デバイスによる機能的運動再建デバイス

- ◆新プロセスによるマイクロ・ナノ構造体・MEMS/NEMS の製作とその応用
- ◆表面活性接合用の新奇高速原子ビーム源開発とその現象解明
- ◆高成形性形状記憶合金のコンビナトリアル特性評価とその医療応用
- ◆新規薄膜非晶質合金の開発とその MEMS 応用
- ◆ナノ磁性を活用した次世代デバイス作製
- ◆ナノ磁性粒子のさらなる応用に向けた物理解明

Department of Micro-Nano Mechanical Science and Engineering

橋詰 直弥, 博士後期課程 2 年



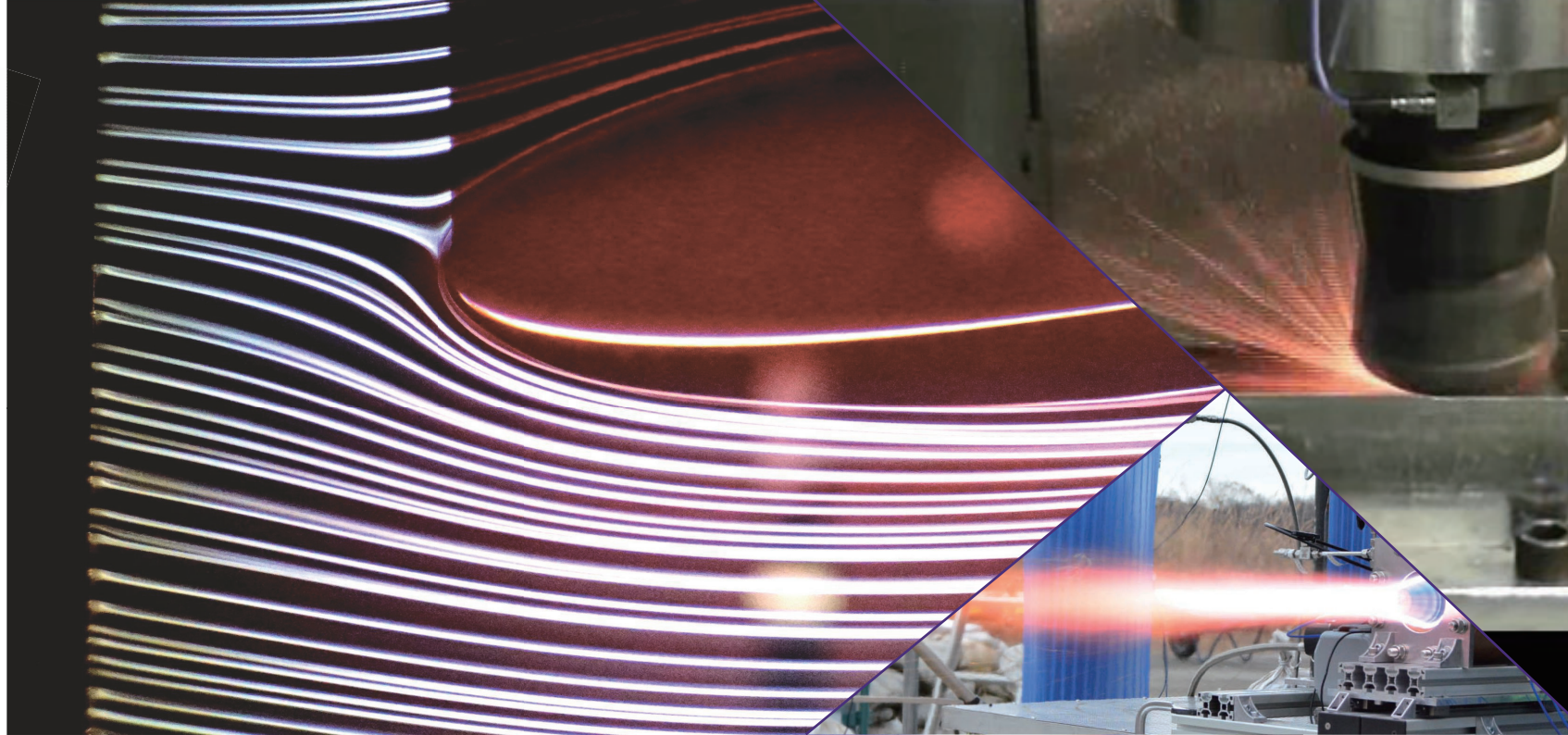
私は機械材料の摩擦摩耗現象を扱う「トライボロジー」を専門に研究しています。専門分野に関する知識を増やすとともに、技術革新の源となる発想力を鍛えるために博士後期課程に進学しました。潤滑油に含まれる添加剤の反応

過程と摩擦係数の関係を解明し、さらに摩擦を低減させる方法を提案することが現在の研究目標です。将来は大学での学びを生かして技術革新をリードし、我が国の産業に貢献したいと考えています。

大前 緩奈, 博士前期課程 2 年



マイクロ・ナノスケールの工学は、現代社会に不可欠な技術です。例えば、スマートフォンといった私たちが日常生活で使っているデバイスには、様々なマイクロ・ナノスケールの機械が使われています。このように非常に小さな機械の作製には、通常とは異なる加工方法や評価技術が必要であり、その応用先も多岐に渡ります。本専攻では、現代のみならず未来の社会を創造する、魅力的な研究が経験できます。



航空宇宙工学専攻

Department of Aerospace Engineering

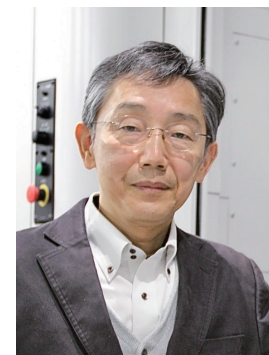
中部地方は航空宇宙産業のリーディングエリアです。国際的な旅客機連携製造拠点の一つとなっています。また、我が国の宇宙開発を推進する大型ロケットもこの地方で生産されています。

航空宇宙工学では、機械、材料、化学など各学問分野における知見を結集し再構成できる総合力と、安全性や環境適合性を基盤としながらも高度な仕様を目指す優れた創造力が求められます。

本専攻ではこのような学問分野を挑戦的に切り拓くとともに、国際的視野のもと指導的役割を担える人材を育成します。前期課程では、学部教育で修得した知識や理解力に基づいて、特定のテーマを深く掘り下げ、まとめあげる能力を養います。これにより、技術者・研究者として新しい技術開発に積極的に挑戦できる人材を養成します。後期課程では、新しい研究領域を切り拓き、創造性と柔軟性に富む思考力と実行力をもって自発的に研究を遂行する能力を養い、第一線で活躍できる人材を育成します。両課程において、熱・流体力学、推進工学、

材料・構造工学、制御工学、飛行力学、生産工学など、広範囲の学問分野を教授するとともに、産業界や JAXA との連携の下、航空宇宙工学の新研究領域を開拓し、航空宇宙機の性能、安全性、環境適合性、経済性の向上に貢献する研究と専門教育を行います。

大学院博士前期課程（修士課程）修了生の多くは、航空宇宙分野や輸送用機械分野などを中心とした製造業にて研究者・技術者として活躍しています。また、博士後期課程にて学位を取得した修了生は、大学・研究機関、製造業などさまざまな分野で先端的な研究者として活躍しています。



専攻長 社本 英二
Eiji SHAMOTO

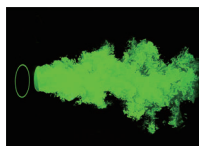
流体力学研究グループ

<http://www.fdl.mae.nagoya-u.ac.jp/>

教授 (調整中)

准教授 渡邊 智昭

助教 (調整中)



航空宇宙工学分野における乱流現象の解明・応用と大気圏飛行システム

航空宇宙工学分野に関連する種々の流体力学問題に関して、風洞実験やスーパーコンピュータによる数値解析を駆使した基礎から応用に至る幅広い研究を行っている。

- ◆ 衝撃波や膨張波と乱流の干渉
- ◆ 亜音速・遷音速・超音速翼周流れの解析とはく離制御技術の開発
- ◆ 高速流中の乱流現象
- ◆ 超音速燃焼場の数値予測技術
- ◆ 安定密度成層中の乱流と内部重力波
- ◆ 流れの大規模数値シミュレーション手法

衝撃波・宇宙推進研究グループ

<http://akagi.nuae.nagoya-u.ac.jp/>

教授 佐宗 章弘

准教授 杵淵 紀世志

助教 市原 大輔

特任助教 中村 友祐



衝撃波／プラズマ／極低温流れの解明と超音速飛行／宇宙推進への応用

「衝撃波」「プラズマ」「極低温」という象徴的な現象を伴う流れを解明・制御して、圧縮性流体応用、超音速飛行、宇宙推進のイノベーションを目指す。対向衝撃波管、静電・電磁複合加速スラスタなど独自開発した装置群で、この分野の only one 研究を推進している。

- ◆ 衝撃波と乱流、境界層、界面等の干渉現象の解明と応用
- ◆ 非定常作用による超音速空力特性の向上
- ◆ 再突入飛行体の空力加熱、プラズマブラックアウトの抑制
- ◆ 静電・電磁複合加速による高比推力宇宙推進機
- ◆ レーザーアブレーション推進とスペースデブリ対策への応用
- ◆ 極低温液体推進系の月・惑星探査への応用
- ◆ 衝撃波／プラズマ／極低温に関する計測診断法の開発

推進エネルギーシステム工学研究グループ

<http://www.prop.nuae.nagoya-u.ac.jp/>

教授 笠原 次郎

特任教授 松山 行一

准教授 松岡 健

助教 伊東山 登



次世代航空宇宙用エンジンに関する研究・デトネーションエンジンに関する研究

次世代のロケット・ジェットエンジン（推進エネルギーシステム）に関する研究を行っている。極超音速反応性流体力学に関する研究を行い、特に極超音速で伝播する燃焼波（デトネーション）に関する基礎・応用研究・飛行実証研究を行っている。

- ◆ 極超音速反応性流体力学に関する実験及び数値的研究
- ◆ 次世代ロケット・ジェットエンジンに関する実験及び数値的研究
- ◆ 極超音速燃焼波「デトネーション」の基礎・応用研究
- ◆ 観測ロケットを用いたデトネーションエンジンの宇宙飛行実験研究
- ◆ 超高周波数間欠燃焼現象の新しい制御技術の提案とその積極的工学応用
- ◆ 高機動パルスデトネーションスラスタの宇宙実証

航空宇宙機運動システム工学研究グループ

<http://nanosat.nuae.nagoya-u.ac.jp/>

教授 砂田 茂

准教授 稲守 孝哉

助教 山口 皓平

特任助教 PARK Ji Hyun



航空宇宙機力学を基礎とした新しい航空機・宇宙機の研究

近年、MEMS 技術の進歩によって、新しい形態の航空機—ドローン—や小型の衛星の実現が可能になった。本研究グループでは、航空宇宙機力学を基礎として新しい技術によって可能になる、これまでにない新しい航空機、宇宙機の研究を行っている。

- ◆ マルチロータ機（ドローン）等、小型航空機の高性能化（特に風擾乱対策）に関する研究
- ◆ 昆虫・鳥の高い飛行性能を実現するメカニズムの解明
- ◆ 産学官連携テーマにおける飛行機の研究
- ◆ 宇宙プラズマと衛星磁気トルカの相互作用による軌道変更
- ◆ オンボード深層学習を用いた衛星の自律的な姿勢変更
- ◆ 超小型衛星における回転分離を用いた編隊形成と宇宙実証機の研究開発

制御システム工学研究グループ

<http://jupiter.nuae.nagoya-u.ac.jp/>

教授 原 進

准教授 椿野 大輔

助教 赤井 直紀



ダイナミクスを制御する新原理の探求とその実現のための認識技術

無人航空機 (UAV) をはじめとした航空宇宙機に希望通りの動きを実現させるためには、その制御や、自身の状態や周囲状況の認識が必要不可欠な技術となる。航空宇宙分野における制御工学やロボット工学について、理論の最先端から将来ミッションを見据えた応用まで幅広く研究を行っている。

- ◆ 月惑星探査機の着陸応答制御
- ◆ 自動二輪車の自立安定化制御を始めとした地上モビリティにおける制御
- ◆ 流体など連続体ダイナミクスのフィードバック制御
- ◆ 制御論の観点から考える新しい小型固定翼航空機
- ◆ UAV の自律ナビゲーション
- ◆ 航空宇宙分野での機械学習・位相的データ解析の応用

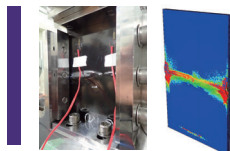
構造力学研究グループ

<http://str.nuae.nagoya-u.ac.jp/>

教授 荒井 政大

准教授 後藤 圭太

助教 (調整中)



革新材料構造システムの創製と新しい材料特性評価方法の開発

炭素繊維強化プラスチック (CFRP) や、ナノ複合材料などの航空宇宙用先進材料の強度や破壊・疲労特性をいかに評価し向上していくかという研究と、それらを用いた、航空宇宙分野における新しい構造の創製を目的とした研究を行っている。

- ◆ CFRP の長期信頼性評価と余寿命予測手法の確立
- ◆ レーザーを用いた材料強度・破壊靱性評価手法の開発
- ◆ 航空宇宙構造のマルチスケールシミュレーション
- ◆ 航空宇宙大規模構造物の衝撃応答と破壊シミュレーション
- ◆ 自動車用 CFRTP 成形技術の開発とその特性評価
- ◆ 超音波を用いた材料特性評価技術の開発

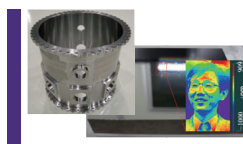
生産工学研究グループ

<http://www.mech.nagoya-u.ac.jp/upr/index.html>

教授 社本 英二

准教授 早坂 健宏

助教 李 昊耆



精密・微細・高能率・スマート加工の新展開

機械（特に航空宇宙）産業では、素材を削り出して部品形状が創製されるため、機械加工の高度化なくして産業の発展は見込めない。そこで加工プロセスの解析、問題となる現象の解明や抑制等の研究を行っており、その成果の多くはすでに実用化されている。

- ◆ 機械加工／工作機械のスマート化に関する研究
- ◆ 機械加工／工作機械の高速高精度化に関する研究
- ◆ 機械加工／工作機械の高能率化に関する研究
- ◆ 工作機械の多機能化に関する研究
- ◆ 高速高精度微細加工に関する研究
- ◆ 高能率／高精度加工を妨げる各種現象の機構解明に関する研究

Department of Aerospace Engineering

藤田 健人, 博士後期課程 2 年, 東京農工大学出身



私は大学院から本学に入学しました。入学の決め手となったのは、先生の研究への熱意です。本専攻は新しい分野を切り開いていこうという意志を持つ方々が多く在籍しています。彼らと議論をすることで日々切磋琢磨できると思いましたし、実際はその予想よりもずっと素晴らしいものでした。また、本学

は総合大学であるため様々な専門家と交流できる他、博士後期課程の学生を支援する制度が充実しているのも見逃せません。現在は航空機や人工衛星の制御に関する研究を行なっています。学部時代は航空宇宙に関する知識がありませんでしたが、本専攻では他では得られない航空宇宙に関する貴重な機会が豊富に用意されているため、安心して研究できています。航空宇宙に興味がある方はぜひ本専攻へ！

ナショナルコンポジットセンター協力講座

先進複合材料研究グループ

教授 吉村 彰記

助教 市来 誠


<http://ncc.engg.nagoya-u.ac.jp/>

軽量性・材料特性に優れた先進複合材料・構造の創製

航空機・自動車、また電力・通信分野への応用を視野に入れ、機械的特性、熱物性に優れた軽量な高機能複合材料および構造の創製を本研究グループの目的としています。複合材料の成形プロセス・新規構造の創製・検査技術について、実験・解析の両面から研究を行っています。

- ◆炭素繊維強化プラスチックの低コストな製造技術、リサイクル技術の研究開発
- ◆先進複合材料を使用した新規な機械・航空宇宙構造の創製および最適化
- ◆複合材料内の繊維構造や材料不整・損傷を検出する新しい非破壊評価方法の研究

オークマ工作機械工学寄附講座

<https://www.mech.nagoya-u.ac.jp/upr/index.html>

特任教授 佐藤 隆太

特任助教 水谷 雄大



「母なる機械」工作機械の高度化と加工技術の革新

航空機などの部品をつくるために欠かせない、「母なる機械」と呼ばれている工作機械の高度化に関する研究を産業界とも連携して行っています。工作機械の精度評価技術や高速高精度化のための要素技術、微細加工技術のほか、工作機械上での金属積層造形精度の向上に向けた運動制御技術の開発にも取り組みます。

- ◆5軸制御工作機械の性能評価と高速高精度化に関する研究
- ◆送り駆動系を構成する機械要素の特性の解明と制御技術
- ◆工作機械に生じる各種振動の抑制技術に関する研究
- ◆超精密加工機を用いた微細加工技術に関する研究
- ◆摩擦によって生じる運動誤差の解明と補正に関する研究
- ◆多軸制御工作機械上での金属積層造形技術に関する研究

協力・寄附講座 関連センター等

Cooperative and Endowed Laboratory Cooperative Institutes etc.

未来社会創造機構

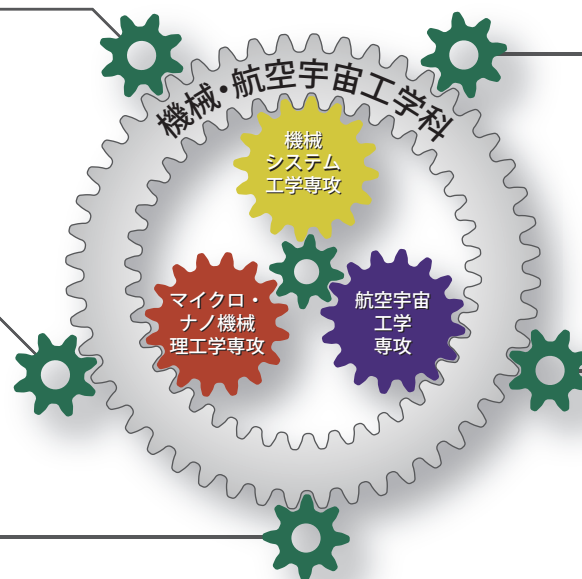
産学官が一体となった研究開発・人材育成を進める機構であり、複数の領域、およびそれらにまたがる研究プロジェクトを運営・統括しています。機械航空系では、モビリティ領域における運営・統括や、JSTが進めるセンター・オブ・イノベーション（COI）プログラム（拠点名：高齢者が元気になるモビリティ社会の実現）の運営・統括において、重要な役割を果たしています。

未来材料・システム研究所

自然と調和した人間社会の持続的発展の実現に向けて、材料からシステムまで幅広く研究を進めている研究所です。機械・航空系では、システム創成部門を中心に連携しています。

ナショナルコンポジットセンター

「軽く、強く、長持ちする」複合材料、特に炭素繊維強化複合材料の、自動車、航空機、人工衛星などの輸送関連機器や、風車をはじめとするエネルギー機器などへの実用化を、産官学で切り開くことをねらいとしたセンターです。航空宇宙工学専攻を中心に機械航空系と連携しています。



ナノライフシステム研究所

ナノライフシステム研究所は、工学研究科、医学系研究科を中心とする医工連携をはじめ、理学、生命農学、情報学、創薬科学、人文社会科学など全学的な分野横断・異分野融合の研究・教育体制、企業の産学協同研究部門の設置など本格的産学連携体制、ノースカロライナ州立大学をはじめとした海外研究機関との研究・教育体制を、オープンイノベーション推進室と連携して構築しています。

創造工学センター

創造工学センターは、従来の座学中心の教育に対して、体験型のものづくりで工学の必要性・学問の方向性を学生に実感・納得させることを活動の目的としており、センター機械工作室のオープン利用も活発に行われています。

入試について

学部・大学院入試情報

学部・大学院入試に関する公式情報は、名古屋大学入学案内や、工学部・大学院工学研究科のホームページを必ず確認してください。

名古屋大学
入学案内



工学部・
工学研究科の
入試情報



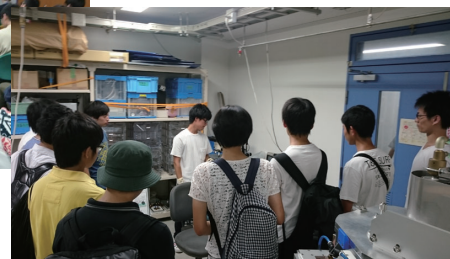
大学院入試説明会

機械航空系3専攻では、毎年2月中旬と4月上旬に大学院入試合同説明会を開催しています。専攻長からの説明会と、研究室見学により、教員や現役学生から専攻、研究室、入試や受験勉強、就職実績などに関する様々な情報を直接聞くことができます。事前申込み等の必要はありませんので、自由にご参加ください。2024年度入試の大学院入試説明会の詳細は、機械航空系3専攻の入試情報を参照してください。

機械航空系
3専攻の
入試説明会



● 入試説明会の様子



説明会参加者の声

- 直接でなければ聞けないような情報が聞けて良かった。（名古屋工業大学4年生）
- 進学を目指して研究室選択の良い参考になった。（東京理科大学3年生）
- 学生目線での説明で良かったです。（静岡大学4年生）
- いろいろ考えさせられる話があり、自分の視野が広がった。（同志社大学4年生）
- 修士課程だけでなく博士課程の説明会も行っていて欲しい。（宮崎大学修士2年生）
- 研究室の説明が詳しく聞けて良かった。（埼玉大学4年生）

オープンキャンパス

名古屋大学では、キャンパスライフを体験できるオープンキャンパスを毎年開催しています。詳細はホームページをご覧ください。2023年度オープンキャンパス（工学部）：2023年8月7日（月）。

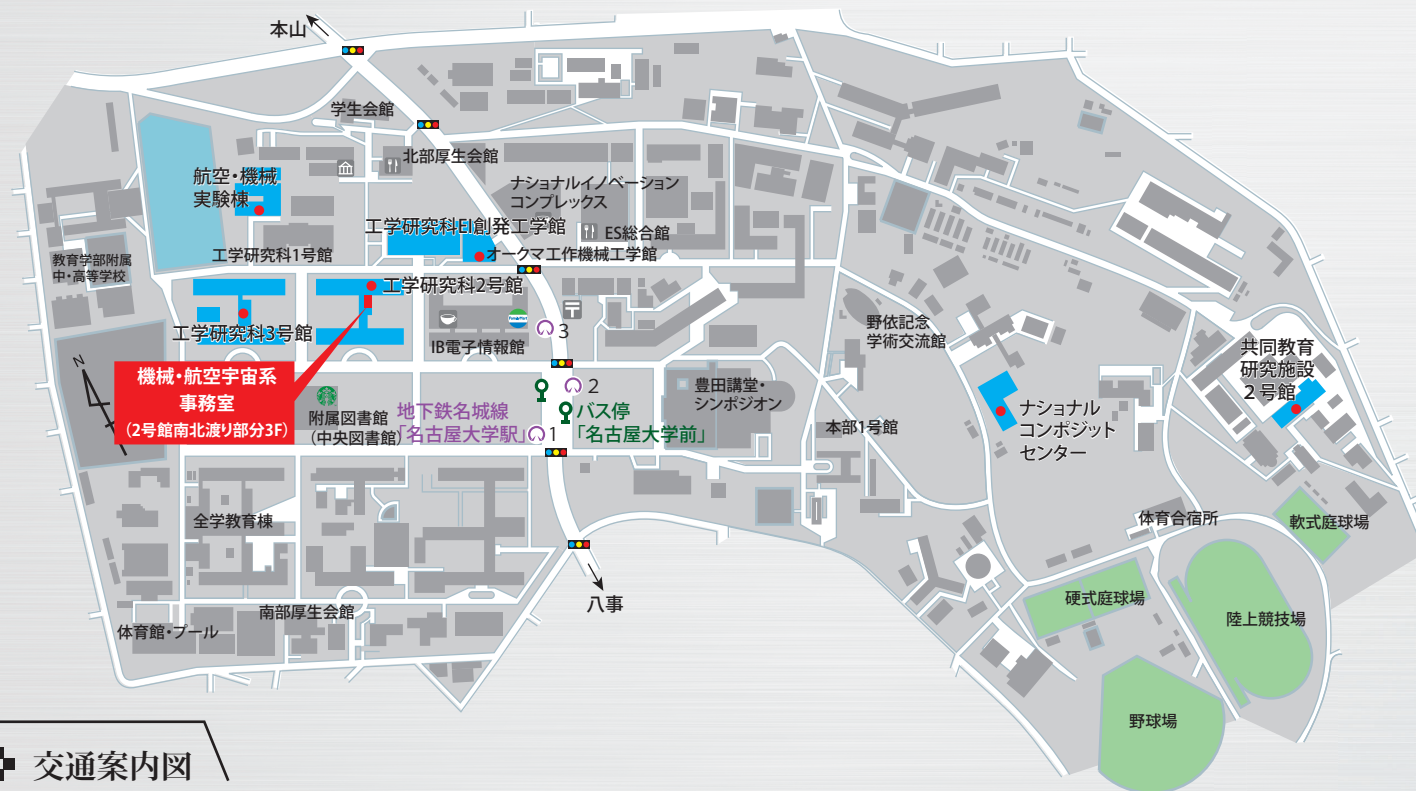
詳細は6月ごろHPにて案内します。事前申込みが必要な場合がありますので、ご注意ください。2023年度の事前申込み期間は、7月7日～7月13日です。

オープン
キャンパス

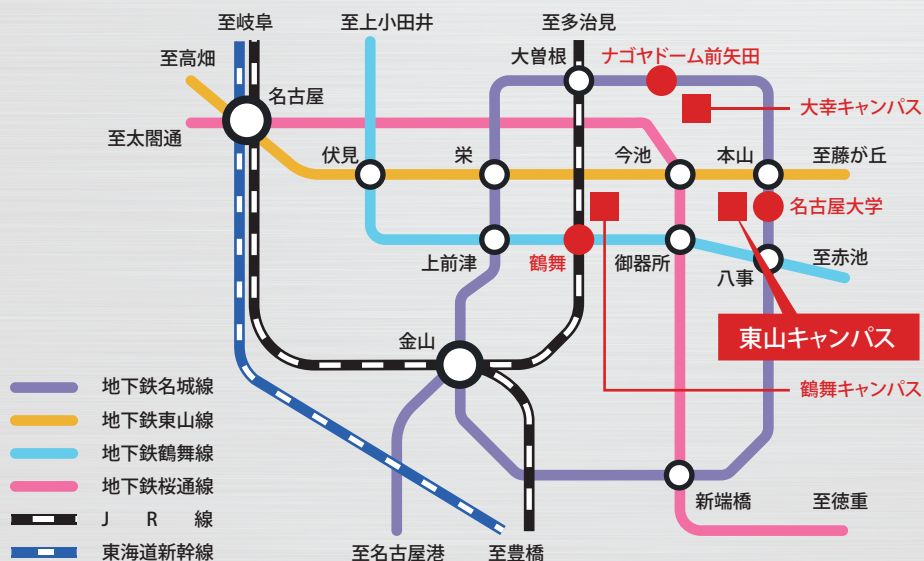


大学紹介、学生生活紹介や名大生との対話コーナーなどの全体企画のほかに、学部紹介・学科紹介、模擬講義（要予約）、研究室見学、常設展示など様々な企画があります。

名古屋大学東山キャンパス案内図



交通案内図



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

〒464-8603

名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院工学研究科

機械・航空宇宙系事務室

TEL: 052-789-3301

FAX: 052-789-3111

E-mail: mae_jimu@mae.nagoya-u.ac.jp

© 名古屋大学大学院工学研究科 機械・航空宇宙系 Designed by Noboru Kawae Y. Ito, S. Hata
第9版(R5.7.31 発行)

障害をお持ちの方は、予め名古屋アビリティ支援センター
(<https://www.gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/osd/>, 052-789-4756)
までご連絡下さい。